



空き家放置により発生するリスク

建物の老朽化

雨漏りやシロアリの発生が原因で、管理していない家屋は急激に劣化し、資産価値は大幅に下がってしまいます。

周辺への悪影響

草木が生い茂ると、不衛生な状態となり、害虫や害獣が発生。近所の方に不安や損害を与えてしまいます。

地域の景観の悪化

壊れた戸口から不審者が侵入し、住み着いていた事例もあり、放火やゴミの不法投棄などの問題も発生。地域のイメージ悪化にもつながります。

空き家を放置すると、左表のように様々なリスクが発生します。空き家が増える要因の一つは、家族構成の変化にあります。近年、核家族化が進み、子供と同居しない高齢者だけの住まいが増えていきます。その方が亡くなった後、施設に入所したりして、家屋の管理ができなくなると、自然と空き家が増えてしまいます。

空き家を解体するにも費用がかかります。NPO法人空家・空地管理センターによると、立地や規模、構造により解体費用は異なりますが、1坪当たり、木造家屋が4万円、鉄骨造で6万円、浄化槽は1個あたり50万から80万円が目安。今後、空き家を使用する予定がなく、利活用にお困りの場合は、誰かに使ってもらう方法があります。町では、空き家の利活用促進のために、「空き家バンク制度」を実施しています。空き家バンク制度については次頁で紹介していますので、ぜひこの機会に、ご自身の空き家の未来を考えてみてはいかがでしょうか。

放置されたままの空き家が及ぼす危険性

居住していない、使われていない家屋を「空き家」と呼びます。お住まいの地域で、そのような「空き家」が増えたと感じることはありませんか。空き家問題は川根本町だけでなく、全国的な問題となっています。



「空き家を必要としている人もいます。ぜひ利活用について考えてみてください」

現地調査で全地区を回ると、これまで把握できなかった「空き家予備軍」が多いことがわかりました。何年も放置して住めなくなってしまう空き家も多く、そうなるのは手遅れです。

空き家の管理には時間もお金もかかります。空き家の利用を希望する人に活用してもらうことで、ご自身の負担を軽減できるだけでなく、地域貢献にもつながります。空き家になる前に、利活用についてご家族と話し合ってみてはいかがでしょうか。

住民の皆さんから「空き家を誰かが使ってくれたらうれしいね」という声をよく聞きます。とはいえ、空き家を求める移住希望者に対して提供できる物件が圧倒的に少ないのが現状です。

空き家は決して他人ごとでなく、自分ごととして考えて欲しい問題です。ご自身が、空き家を所有していなくても、ご近所やご親族にそのような方がいる場合は、「空き家バンク制度」を伝えてみてください。

移住コーディネーター
神東 美希さん



まちの未来のために ～あなたの「空き家」どうしますか～

空き家が増えていくと地域の活力も低下します。しかし、正しく活用できれば、移住定住の促進やUターン受け皿になり、地域の活性化にもつながります。

今号では、空き家が抱える問題点と、町が実施する「空き家バンク」について紹介します。

	平成27年 3月	令和2年 7月
人口	7,541人	6,574人
居住世帯数	2,957軒	2,863軒
空き家数	240軒	506軒
空き家率	7.5%	15%

表：人口・世帯居住数と空き家の推移

空き家は町全体の問題
町は昨年度、区長の皆さんに依頼して空き家の実態調査を実施し、その情報をもとに、今年度、現地調査を行いました。その結果、町内に506軒の空き家があることがわかりました。これは、約7軒に1軒の割合です。左表を見ると、人口や居住世帯数の減少に伴い、空き家は平成27年度から倍増し、今後も増え続けていくことが予想されます。空き家の増加は、自治会などの地域の活動の担い手がいなくなるなど、地域の活力低下を招きます。